

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 茨城県 】

1 実践テーマ	【 III 】
2 実施対象者	茨城県立土浦湖北高等学校 全校生徒（754名）
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 ( )</p> <p>② 行事名 ( 芸術鑑賞会 )</p> <p>③ その他 ( )</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ( )</p> <p>② その他 ( )</p>
4 目標 (ねらい)	<p>① 北京・ロンドンパラリンピック競泳日本代表の「伊藤真波さん」を招いて、障がいを乗り越えて自らの人生を切り拓いていく姿勢を学ぶ。</p> <p>② 講演者の演奏（義手によるバイオリン）を生で聴くことにより、共生社会のあり方について学ぶ。</p> <p>③ 事後指導により、スポーツを通しての心の成長と共生社会のあり方について、生徒が自らの成長の糧にできるように導きたい。</p>
5 取組内容	<p>○事前学習としていくつかの運動部・生徒会に対して</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・映像資料DVD (I' m POSSIBLE) の「リオパラリンピック大会ダイジェスト」の視聴</li> <li>・紙芝居形式の授業用シート (I' m POSSIBLE) の活用</li> </ul> <p>○実際の講演会 「あきらめない心」</p> <p>看護学生として夢に向かっていた20歳の時、不慮の事故によって右腕切断を余儀なくされ目標も失いかけていた。嫌なことから逃げることを乗り越え、周りの方々の大きな支えと協力により『看護師専用の義手』を作ることができ、「強い人になりたい」と思えるようになる。</p>  <p>看護学校と平行して、リハビリとして始めた水泳でもパラリンピックの日本代表として出場することもできた。もちろん不便なことはあるけれど、今は自分なりの方法で育児にも励んでいる。</p> <p>最近は（バイオリン専用の義手を付け）バイオリンにも挑戦している。人には他言できない傷がある。大切なもの・人を知ること、人は優しくできる。優しい心に触れ、挫折と向き合い、夢に挑むこと、それが「諦めない心」なのだ。</p> <p>○事後学習として全校生徒にアンケートと簡単な感想文を書くことを実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート（オリンピック・パラリンピックに関する意識調査）</li> <li>・感想文（講演会を聞いての「あきらめない心」について） （感想文はいくつかを選び「伊藤真波さん」に郵送）</li> </ul>

<p>6 主な成果</p>	<p>○事前学習 「リオパラリンピック大会ダイジェスト」の視聴では、知らなかった競技や初めて見る競技が多くあったことを知り、オリンピックとの違いが認識できたことが挙げられる。そしてその競技に取り組んでいるパラリンピアンの方々の真剣さ・桁違いの努力を感じ取ることができた。</p> <p>○講演会 メディアを通しての話ではなく、実際の生の講演、そして臨場感あられる話し方も加えられて「あきらめない心」の大切さが心に残った。そしていくつかの義手を見せていただいたが、 まず ①義手を作る職業があること ②作るために協力していただいた多くの方々の存在 ③作るための時間と費用 それらを考えていったときこれからの共生社会のあり方が見えてくるように思えた。特にバイオリン演奏のためだけに多くの方が関わりをもって完成した義手は、超機能的でありしかも美しく、見るものが感動をもらうことができる「美術品」と言って良いものであった。もちろん演奏をしていただいた伊藤さんの努力が一番であろう。</p> <p>○事後学習 アンケートを行うことによりオリンピックはもちろんのこと、パラリンピックの競技に関心をもってくれた生徒が多かったことが確認できた。自分で感じたことを文章化することで、これからの進路実現に向けて、何らかの気持ちの変化があったのではないかと考える。</p>
<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>当日、NHK 茨城に取材に来ていただき、生徒数名にインタビューがあった。その日の夕方にテレビ放送があり、自分達が企画立案し参加した行事がこれからの社会生活にいかにか大切なものであるのか、その事を仲間のインタビューとともに再確認できたのではないかと考える。</p> <div data-bbox="1018 607 1420 875" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="416 1346 770 1585" data-label="Image"> </div> <p>「伊藤さんの頑張りが本当に伝わってきて、この頑張りが、『自分にもできるのか?』と不安になるが、自分を信じて進んでいこうと思う」</p> <p>「昨日父と話をしている中で、感謝の気持ちを伝える機会があった。しかし、照れや自分の気持ちをまとめることができず言えなかった。次の機会には今日の講演会で学んだことを踏まえ素直な気持ちで感謝を伝えたい」</p> <div data-bbox="1034 1592 1402 1839" data-label="Image"> </div>
<p>8 主な課題等</p>	<p>できれば学校の体育館等ではなく、公共の施設（市民会館・ホール）等を使用して良い環境の中で行った方が有意義であろう。</p>
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<p>学校行事がこれ以上増えることは(授業確保の観点から)賛成はできないが、少なくとも3年に1回はこのような事業を組み入れても良いのではないかと考える。</p>